

件名	令和6年度コミュニティ交流会について
内容	<p>日時：令和6年8月3日（土） 9時30分～12時30分 場所：市民福祉プラザ5階 参加者：合計28名（24町内会） 対象：257町内会 中央地域：82町内会（上町、中央地区） 谷山地域：51町内会（谷山、谷山北部） 伊敷地域：44町内会 松元地域：48町内会（全域） 郡山地域：32町内会（全域） 会次第：別紙のとおり</p>
	<p>【意見交換による5グループの事例等の発表】 テーマ：「コロナ禍後の地域活動について」 サブテーマ：①コロナ禍を契機に始めたこと、やめたこと ②行事運営で大変だったこと、改善したこと</p> <p>Aグループ（発表者：上之園町町内会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の行事は敬老会や十五夜が中心だった。 ・どこの町内会も、①町内会加入率、②役員のなり手不足、③ごみステーション管理、財源確保といった共通の悩みを抱えている。 ・町内会加入率の向上のためには、子どもをターゲットとした行事を実施するのが良いのではないかと懸念している。最近では塾に通っている子どもや仕事等で忙しい親が多く、参加が難しいのではと懸念している。 <p>Bグループ（発表者：玉里団地東第一町内会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独事業を広げる。 ・数十名参加の行事はコロナ感染が危惧される。そのため、屋外で実施する、食事会を止めて金券配付にする、開催時間を短縮するなど工夫が必要である。開催時間の短縮は感染対策だけでなく、参加しやすいと会員からも好評であった。 ・これまで行事中に食べていた弁当を配布し自宅で食べるようにしたところ、家族団欒の時間が過ごせたと好評であった。 ・行事の実施内容の見直しも必要である。ニュースポーツは種類も多く参加者が飽きない。 ・コロナによる行事の減少が参加者の減少に繋がっている。 ・役員が1年交代の場合は、活用している補助制度等の知識が引き継がれないことがある。 <p>Cグループ（発表者：易居町町内会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより敬老会を集会形式から祝い金配付形式に変更した町内会もある。また、敬老の対象年齢も町内会により違いがあった。 ・アンケートの結果から、「人と関わる機会が欲しい」と考えている人は地域に多い。 ・運動会はコロナで中止したり、半日開催へと開催時間を短縮したりしている。また、競うよりもレクリエーション的な内容にシフトしてきている。運動会のような多世代が集まる機会は貴重なので続けていきたい。 ・町内会加入促進では、資料を手作りして戸別訪問に行っている。話せないこともあるので、伝えたいことは紙ベースで渡すよう心掛けている。

- ・町内会費の口座振込やQRコード決済は導入が難しいが、加入促進になるなら興味がある。
- ・役員同士はLINEでやり取りしている。

D グループ（発表者：城山町敬天区町内会）

- ・コロナにより、運動会は半日開催へと開催時間を短縮した。夏祭りは3年ほど中止が続いていたが、コロナ禍後に復活させた。敬老会は集会形式から祝い金配付形式に変更した。
- ・相撲大会や文化祭など、未だに復活できていない行事もある。
- ・町内会費は月300～500円程度で、年に1・2回、班長を通じて集金している。
- ・回覧板は月1回くらいが理想である。
- ・木製の掲示板は撤去に係る経費が大きく町内会には負担である。設置に係る経費が補助対象だったように撤去も補助があれば助かる。

E グループ（発表者：内田下1自治公民館）

- ・ごみステーションの管理について、未加入者による利用や収集日以外のごみ出しなどの人的問題や、新規設置場所の確保が難しい、カラス等の動物被害などの環境的問題がある。町内会加入率を上げることやごみハラスメントとして周知することなどが対策になると考える。
- ・会長引継については輪番制を導入しているところもある。
- ・コロナ禍の活動については、仕切りを設けて行事を実施した例があるが、盛り上がりには欠けた。行事をやりたいと思っているが、最近またコロナが増えているので難しい。